講義名	地域再生論				
科目区分	学部専門科目				
担当教員	岸野　啓一／西井　和夫				
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 ３時限			授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース／2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース／2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメン／ 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング／2014年度 サービス産業学部				
履修開始年次	３年生	単位数	2	備考	

主題と概要

我が国は、社会経済システムの大きな転換期にある。地方分権、地域主権への構造改革も確実に進展していくなか、より自律的な地域経営について、新しい手法の確立が求められている。
本科目では、まず、現在の主要な地域課題を概観し、地域課題とはそれぞれの政策分野の枠を超えた横断的な問題であることを理解する。そのうえで、その総合的・創造的な解決策について考える。
今後は、市民、起業、NPO等も公的サービスを担う社会に変化していくことから、卒業後に公務員職には進まない学生にとっても、これからの社会システムについて理解を深め、将来、仕事や生活の面で役立つ講義としたい。

到達目標

①　まず、地域再生が必要となった背景や地域再生の取り組みに関する最新の諸事例の解説を通じ、地域再生とは何かを理解する。
②　その上で、地域再生の問題の捉え方やその基礎知識を学ぶ意義を理解し、その基本的な知識を習得する。
③　これらの成果に基づき、地域課題の構造を簡潔に表現できる。
④　地域再生の時事問題に対して自分の意見を述べる。

提出課題

本授業では、講義内容の理解度確認のための課題演習（レポート）を予定しているので、注意されたし。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

課題演習は、基本的に採点結果と合わせて返却し、全体的な講評とともに、個別にはコメントを付して、フィードバックを行っている

評価の基準

前半部・後半部のそれぞれで、下記の点数配分で評価する。
平常点５０％（講義内での簡単な演習課題への取組みの評点を含む）、試験（確認テストやそれに代わる課題レポートを含む）５０％

履修にあたっての注意・助言他

今年度は、前半部に事例を中心とした地域再生論の各論に当たるパートを講義し、後半部に総論部分を含めた全体の講義を行う。これは、前半部で具体的な事例を通じて、地域再生論に関するイメージの理解や課題意識を高めることをねらいとして構成したものである。

参考テキストやプリントに従っての連続的な積み上げ授業であるので、欠席は避けること。また、　授業では、地域再生に関する時事問題をその都度取り上げるので、普段から新聞等のニュースに気を配るようにしてください。
●定期試験期間中の試験はないので注意！

教科書

.使用しない.

プリント資料及び参考文献

講義時に配布するプリント

授業計画

No.1～No.７　担当岸野
１　地域再生の社会的背景（１）自動車利用の進展と生活の変化
２　地域再生の社会的背景（２）都市への機能の集中と過疎化の進展
３　地域再生への取組み事例（１）高齢者の生活を支える公共交通の再生
４　地域再生への取組み事例（２）過疎地域における小さな拠点の形成
５　地域再生への取組み事例（３）オールドタウンの再生
６　地域再生への取組み事例（４）中心市街地の活性化
７　前半部テスト
No.８～No.15　担当西井
８　序論（地域再生とは何か？）：「総合特区」の実効性ある実現を
９　地域再生論（１）　：地域活性化を実現する観光振興策
10　地域再生論（２）　：まちづくりの基本的価値観と方向性
11　地域再生論（３）　：地域再生に果たす地域マネジメントの役割
12　地域再生論（４）　：地域が支える高齢者の住まい・まちづくり
13　地域再生論（５）　：先進自治体：北九州市，マイナスからプラスへ、工業都市の挑戦
14　地域再生論（６）　：先進自治体：久留米市，先進医療都市
15　後半部テスト

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義内容への理解に応じて、予習・復習の必要性とその量・程度を各自で判断しなさい。そのためにも準備学修よりも、毎回の講義をしっかり聴くこと。（講義中にスマホばかり見ていて、講義を聴いていない学生には、準備学修などできるわけがない）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本的には、講義中の質疑応答などで対応している。ICTの活用は非該当科目のために利用計画はない

実務経験の有無及び活用

岸野：実務経験あり　講義中のイントロ部分の講義への関心を高める材料としての活用はこれまで実施したことがある
西井：実務経験なし

備考